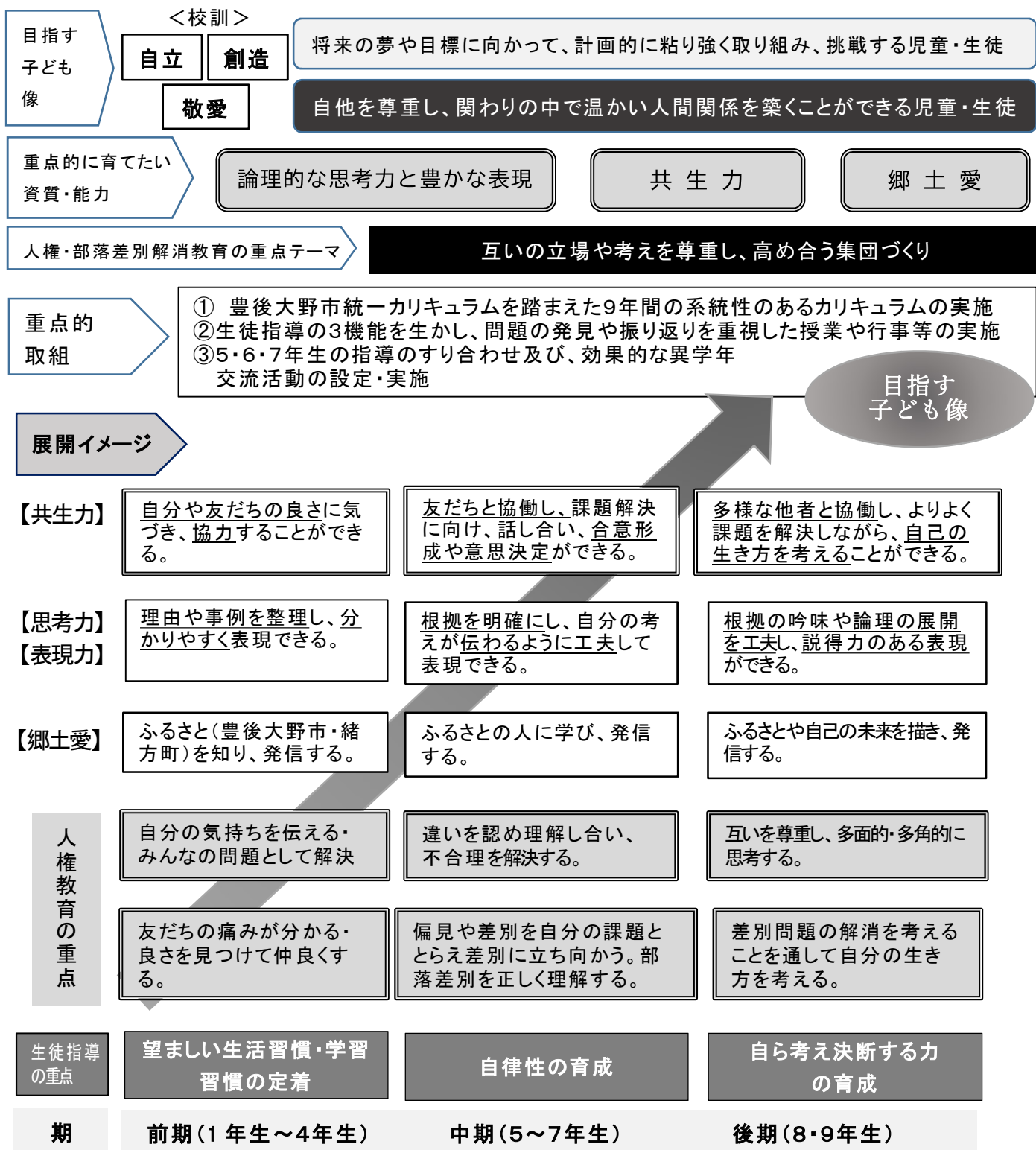


1. 緒方学園教育テーマ

自他を尊重し、関わりの中で温かい人間関係を築くことができる児童生徒の育成

2. 緒方学園人権・部落差別解消教育の構想

教育目標 「未来に向かって生きる力」を備えた緒方っ子の育成



3. 研究内容

(1) 授業研究・授業実践の確実な推進

○市人権・部落差別解消教育統一カリキュラムを確実に授業実践し、9年間の学びの連続性や発達段階に応じた系統性を視点に検討・改善をしていく。

(2) 自他を認め、ともに支え合う活動の推進

○人間関係づくりプログラムの実践を通して、人との関わりの経験を通して社会性を育み、お互いの人権を尊重し、互いに助け合うことができる考え方や態度を育てる。

○児童、生徒会活動・学校行事等での縦割り班、専門部活動、小中の異年齢集団の活動を通して、幅広い年齢層の響き合い・磨き合い・支え合いの中で豊かな人権感覚を育てる。

(3) 人権・部落差別解消教育に協働して取り組むための共通理解の深化

○小中合同の授業研究会を実施し、9年間の連続性を意識した児童・生徒の人権感覚の育成をめざしていく。

○小中合同や小中学校ごとの人権・部落差別解消教育研修を計画的に位置づけ、実践する。



4. 研究の経過

【2023年度】

◆授業研究

6月28日(水) 小学校 第2学年 道徳「やさい村の子どもたち」 田北 喜代美 教諭

10月13日(金) 中学校 第3学年 道徳「電車の中で」 木元 彩葉 教諭

◆小中合同人権講演会 6月28日(水)

演題「多様な性のあり方について～パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度～」

講師 市人権・部落差別解消推進課 神志那 やよひさん 羽田野 浩司さん

◆校内研修 緒方小：10月4日(水) 緒方中：12月6日(水)

校内作成「人権尊重・多様な性のあり方に関するハンドブック」の共通理解

【2024年度】

◆授業研究

5月22日(水) 第4学年 道徳「ざるにはざるを」 溝口 健二 教諭

6月19日(水) 第2学年 道徳「動物村の子どもたち」 秋篠 大和 教諭

7月5日(金) 第7学年 総合「差別の起こりについてパンフレットで説明しよう」

田原 亮祐 教諭

第8学年 総合「差別と闘った人から学ぼう」 岸村 正太 教諭

9月4日(水) 第5学年 道徳「ふみきりむこう」 佐藤 寿美 教諭

◆学園研修

5月2日(木)

緒方小職員研修 内容 「部落差別解消教育について」

講師 豊後大野市教育委員会社会教育指導員 後藤 修一郎さん

8月6日(火)

学園研修会議 内容 「データを生かす生徒理解と支援」

講師 学校カウンセラー 石川 文隆 先生

5. 緒方小学校の取組

- | | | | | |
|----------|--------|------|----|------------|
| (1) 授業実践 | 2023年度 | 第2学年 | 道徳 | やさい村の子どもたち |
| | 2024年度 | 第4学年 | 道徳 | ざるにはざるを |
| | | 第2学年 | 道徳 | 動物村の子どもたち |
| | | 第5学年 | 道徳 | ふみきりむこう |

豊後大野市人権・部落差別解消教育統一カリキュラムの教材を教育課程に位置づけて、計画的に実践している。

(2) 自他を認め、ともに支え合う活動

(ア) 学級活動

学級活動では、月1回以上の学級で遊ぶ日を設定し、各学級でなかまづくりにつなげていく活動を行ってきた。また、帰りの会等で、いいところみつけの時間を設定し、伝える時間を毎日設定するとりくみも行ってきた。

(イ) 児童会活動・たてわり班活動

本校では、全校を6つのたてわり班に分け、年間を通して様々な活動を行っている。同学年や異学年の友だちと協力して学校生活の充実と向上を図るとともに、お互いのよさを見つけ、ちがいを尊重し合い、仲良くしたり信頼し合ったりするなどよりよい人間関係を築いていくことを目的にしている。

○花植え

例年11月に、卒業式の式場を飾る花をたてわり班で分担して植えている。昨年は、5年生がまず三重総合高校の生徒から植え方を教えてもらい、その後、それを低学年に教えながら植えた。5年生が6年生に代わって、全校のお世話をだんだんと引き継いでいく初めての活動になった。

花植えの後には、班ごとに当番を決めて水やりなどの世話をを行った。

○そうじ

たてわり班でのそうじを始めて5年目になる。そうじ区域を6つに分け、3・4週間ごとに各班がそうじ区域を交代しながら1年間を通して行っている。時間内に、どの場所もきれいにそうじを終わらせるために、6年生は事前に、各場所のそうじの仕方を動画にとって全校に知らせたり、新しいそうじ区域に交代する時には学年のバランスを考えながらだれにどこのそうじをしてもらうかを決めたりする。はじめは大変で、時間内にそうじが終わらないこともあったが、どの班も回を重ねるたびに上手にそうじができるようになった。高学年が低学年に教えながらそうじをしたり、いっしょに机を持って運んだり、低学年が高学年のそうじをまねしたりと、すてきな姿もたくさん見られた。そうじ後のふり返りでは、友だちのがんばりや教えてくれた高学年へのありがたいの言葉を話す子どもも多くなり、それを「はなまるはあと」に書く子どももいた。

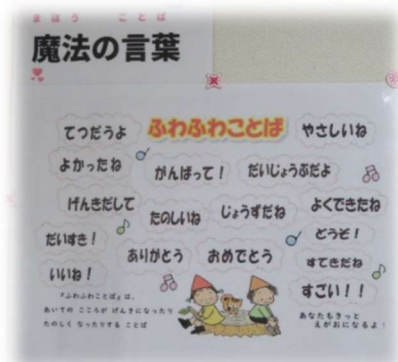
○集会活動

年に2回、6月と11月に全校集会を行っている。6月のスマイル集会では、みんなが楽しめる集会にするにはどんな競技がいいか代表委員会で決定し、今年はスマイルリレー・スーパー玉入れ・綱引き・お宝ジャンケンの4つを行った。たてわり班を基本にし、運動会にもつながる青・赤対抗で競い合った。6年生を中心に、走る順番やペアの組み合わせを考え、意欲的に練習をする場面が見られた。練習日や集会当日のふり返りでは、高学年から低学年までたくさんの意見が出された。友だちの様子をよく見て、お互いを認め合う関係が築けてきた。昨年の11月のチャレンジランキング集会では、各班が的当てやボウリングなどのコーナーを担当し、協力してルールを考えたり必要な道具や看板やポスターをつくったりした。当日は、低学年と高学年がペアになって自分のコーナーのお世話や各コーナーを回ってチャレンジした。その中で、優しく教え合ったり励まし合ったりする様子がたくさん見られ、みんなの笑顔があふれる楽しい集会になった。

○はなまるはあと

本校では、児童会全体のとりくみとして、全校児童で友だちの良さや頑張りをカードに書いて掲示し、認め合う活動を行っている。カードの色を4色に分けて、「あいさつ」「そうじ」「たてわり班」「その他」の4つの項目で頑張りを見つけられるようにしている。カードは教室に常時準備しており、いつでも書くことができる。また、集会などの後は、時間をとって学級や班ごとにはなまるはあとを書くようにしてきた。子どもたちのカードには「たてわり班そうじで、黙々とそうじをしていたのすごかったです」とや「スマイル集会の魔法のじゅうたんで上手にジャンプしていたのすごかったです」などが書かれていた。カードを給食の放送で読み上げて知らせるようにしたり教室で担任が読み上げて紹介したりしている。カードは年間を通して掲示しているため、休み時間などに子どもたちがどんな内容が書かれているかをみて喜んでいる姿が見られている。

企画委員会が「はなまるはあとを見つけたんジャー」や「はなまるはあとをもらったんジャー」のとりくみを行い、はなまるはあとをたくさん書いた学級や、たくさんもらった学級を紹介したりした。



児童会企画委員会が中心になって、「あったかことばを使おう」と呼びかけている。

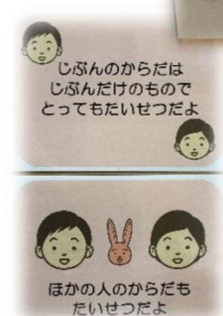
(ウ) ぽかぽかタイム (人間関係づくりプログラム)

毎週金曜日に、15分間のぽかぽかタイムを設定して「人間関係づくりプログラム」を実践してきた。全学年「アドジャン」を中心にして、「友だちビンゴ」「二者択一」「1分間スピーチ」などを学年ごとに選択してとりくんできた。「相手を見てうなずきながら聞く」「最後までだまって聞く」などを約束にして、モデリング・活動・活動の振り返りという順に行い、ふり返りをする。子どもたちから、「友だちについて新しいことを知った」「友だちのいいところを見つけた」などの声が聞かれるようになっていく。

(3) 人権尊重・多様な性のあり方に関するとりくみ

職員が正しい理解をし適切に対応する必要があることから、本校では「人権尊重・多様な性のあり方に関するハンドブック」を作成し、職員の理解を深める校内研修を行い学校生活における配慮・対応について共通理解を図っている。例えば校内では、家庭から学校への提出書類や学校発出の書類等の性別の記載欄の必要性について精査し、性別欄がなくても対応可能なものについては性別欄を削除している。また、ジェンダー的な公正さや、望まない性に基づく敬称に苦痛を感じる児童への配慮から同じ敬称で「さん」をつけて呼ぶようにしている。さらに、保護者・地域住民への配慮・対応として、パートナーや家族の呼び方についても、パートナーやお連れ合い、保護者の方・ご家族などの呼び方を心がけている。学校施設の利用に関して、各階のトイレの一つを「誰でも使うことができるトイレ(みんなのトイレ)」に変更することも行っている。

校内で友人関係のトラブルが続いていた時、保健委員会の子どもから「自分も相手も大切にしてほしい」と意見が出た。そこで保健集会で「わたしはあかねこ」の絵本を紹介し、一人ひとりに良さがあり、それぞれの個性を大切にしてほしいことを伝えた。集会の間、どの子どもも真剣にきいている様子がみられ、「自分らしさを大切にしたい」「自分の個性もみんなの個性も大切にしたい」と感想が出た。社会にはさまざまな生き方があることを知り、子どもたち一人ひとりがお互いを尊重し、自分らしく生きていくことができることを目指して、保健室前に本を置いたりトイレにメッセージを掲示したりして、日常的に目に触れるようにしている。



トイレの掲示



6. 緒方中学校の取組

(1) 授業実践について

- (ア) **全教科等共通の研究テーマ** 自分の考えや思いをいきいきと表現する姿を求めて
～学習カードを活用した課題解決的な単元学習の創造～

<主題設定の理由>

本校は、「自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成」を教育目標に掲げている。その実現に向け、各教科等で課題解決的な単元学習を重ね、自分の考えや思いを生き生きと表現する力を育成したいと考えた。

課題解決的な学習の過程で、生徒の意欲を引き出す問いを設定し、情報を収集・整理したり、自分の考えや思いを交流したりする学習を通して考えを深めることで、課題が解決したという達成感と、表現することの楽しさを味わうことができる。その経験が更なる課題解決への意欲につながり、めざす生徒像に近づけると考える。

(イ) 人権学習のすすめ方

人権学習においても、単元的な課題解決学習をすすめたいと考え、総合的な学習の時間に実施することとした。問題を発見し、課題を設定して探究し、分かったことや考えたこと、思いや願いを交流することで、多面的・多角的に考えを深め、人権問題を自分の課題として受けとめることができると考えたからである。

そこで、義務教育卒業までに身に付けさせたい知識と、醸成したい自分なりの考えや実践意欲を想定し、中学校3年間の段階的・系統的なテーマを設定した。

単元の構想に当たっては、豊後大野市統一カリキュラムの教材を生かしつつ、外部講師の講話や調査活動等を取り入れ、伝えたいこと・交流したいことをもつことができるように工夫した。各学年のテーマと学習内容は次ページ【人権学習単元計画】のとおりである。

(2) 互いに学び合い成長する集団作り～Sタイムの活動を通して～

※「Sタイム」…校時表に位置づけ、15分間の活動時間を確保

○「Study Up」 *生徒会学習部主催

*生徒同士がiPadで問題を作って学び合う活動

○「Song Time」

*音楽科と生徒会本部の共催

*生徒会リーダーとコーラスリーダーを中心に定期的に

課題曲を決めて全校で合唱を創り上げていく活動

○「FUNFUN スポーツ」*保健体育科と生徒会保体部の共催

*地域の外部講師等の協力を得て、運動の楽しさを感じながら

交流を深める活動 今年度6月は、小学校5,6年も参加

○「人間関係づくりプログラム」

*自他を認め、互いに関わり合う力を育成する短時間のグループワーク



【人権学習単元計画】

下線部は、「豊後大野市統一カリキュラム」より

学年	7年		8年		9年	
目単 標元	◎「部落差別の起こり」をパンフレットにして説明しよう！		◎差別と闘った人から学ぼう！		◎差別問題解消をめざして、いかに生きるか考えよう！	
	学習内容	時間	学習内容	時間	学習内容	時間
学習 計画	1. 人権学習オリエンテーション	1	1. 人権学習オリエンテーション	1	1. 人権学習オリエンテーション	1
	2. 資料を読んで差別の起こりについて理解する。 「 <u>部落の歴史と解放への歩み</u> 」 「 <u>やぶれた太鼓</u> 」	2	2. 差別と闘った人から学ぶ。	2	2. 部落差別の現状について理解する。	2
	3. 部落差別についての話を聞いて、なぜ今も差別が残っているのか考える。 *講師：後藤宏文氏	2	(1) 「 <u>水平社宣言</u> 」	1	(1) 部落差別について *講師：後藤宏文氏	1
	4. 部落差別の起こりについてパンフレットで説明しよう！	1	(2) 「 <u>夕焼けが美しい</u> 」	1	(2) 「 <u>話してくれてありがとう</u> 」 (結婚差別)	1
	(1) 何が問題なのか、考える。	1	3. 差別と闘った人について調べる。	1	(3) 「 <u>統一応募用紙</u> 」 (就職差別)	1
	(2) パンフレット計画する。	1	*班ごとのテーマ 北代 色山田少年 キング牧師 マララ・ユスフザイ	3	(4) 部落差別の現状 *講師：足立哲範氏	2
	(3) パンフレットを作成する。	3	(1) 調査する人を決める。	2	3. 現在の差別問題について考える。 *班ごとのテーマ 結婚差別 就職差別 ハンセン病問題 在日コリアン (人種差別) 性差別	1
	5. パンフレットを使って説明する。 *班ごとに意見交流をする。	1	(2) 調査する。	1	(1) 学習した内容を参考にテーマを決める。 (2) 班ごとに調査する。	3
	6. 学習のまとめをする。 *完成したパンフレットは校舎内に掲示する。	1	(3) わかったことをまとめる。	1	(3) まとめる。	1
			4. 調べたことを交流する。 *発表内容を参考に、差別と闘った人たちの共通点について考える。	1	4. 調べたことを交流する。	1
			5. 学習のまとめをする。 *ロイロを使ってまとめた資料を校舎内に掲示する。	1	5. 学習のまとめ(本時) *発表を参考に差別の根本的な原因について考える。	1
	文化祭(11月2日)：人権学習発表会(学年ごとに) *学習を通して学んだことを全校で交流するとともに保護者や地域の方にも伝える。					

(3) これまでの成果と課題

7, 8年生では、パンフレットにして説明したり差別と闘った人を紹介したり、単元的な展開の中に課題解決学習を取り入れることで、部落差別について知るだけでなく、自分で考え、理解を深めることができた。ただ、発表したことを参考に更に自分のこととして考えさせるための発問等の工夫が必要だと考える。9年生の人権学習では、自分のこととして考えるための授業展開や発問等を考えていきたい。